枇杷園句集 後篇 坤

913
1
3-2-2

Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak

愛知県有物品

愛知県文化会館
昭和 39.11.25
114203

枇杷園句集後編巻之五

秋

初秋

主ふも老ふて来ふる菴の秋

秋ち目ふる團扇の角ちひ

ちり秋の麻ちつ孔ちる蓬ふふ

ち和出ち刃をちり秋のうゝつふる

秋ちり中蓮の絮買ふ池めぐ利

A913
1
3-2-2

蚤敵てさて所紙て眠らせとやえる
旅情いとさらふかまし けるしれはそて
蛩きふこもふ死ふてなきあり 秋

七夕

兄弟う笹にかそひや星まつり
大膳や長川をかるまほしの書
天河さひ城てたてこの角
水州ふむうてまうつ盆の月

死後の枕上てむしやむいひなる
文おう墓所ふ詣て

墨
墨をもてむしまれちらつ塚の州

新凉

撫子の露をれしまれ河原うる

野秀亭萩見

萩乃雨にかるもちうるて萩の戸

女郎花

[illegible]

木槿

むしのこゑや紫なる木槿にそれ一ツ

薄

蟬の風に羽を置く芒かな

友鳳亭

秋の日はすしの[illegible]て物蔓ふかの黄

色なるふ老母艸の青こしこれを艸こそとも

交て野邊の氣色をこそ[illegible]

活て砧の聲白きよを望や秋ふかみ[illegible]

靜ふ幽みて庭の[illegible]

こゑ々秋ハ

萩をこゑをこゑをこえて遠きなる

小夜ふけぬる月のかゝるを霜やおく

露

山間や旅に餐ふる笠の露

世[illegible]つの[illegible]人ふ[illegible]草の[illegible]

蟋蟀

[illegible]

霧

いけ[illegible]日の外ふ[illegible]の[illegible]霧の[illegible]

得車一字

[illegible]

角力

萩[illegible]根の小家[illegible]る角力[illegible]

蜻蛉

[illegible]羽[illegible]蜻蛉の[illegible]

八朔

竹馬や野[illegible]八朔の里[illegible]べ

月　題朔日月

[illegible]月[illegible]煙[illegible]

山[illegible]中[illegible]月夜

花鳥のうつるにそのひとつに古寺其名を成
就院とさくやまむらに芭蕉の翁こゝに庵か
晩望して何ものあるたよりなく似る三日の月
かゝるいひ出しにそゝろ又五條坊木児とゝいへるこの
喰を伸しかゝりて三日月塚をさく築なかるゝ
それさく五十年のきりかぶなるまて尾破も木葉
もまた狸狐のうつれ人見むさるふるとかゝ
そゝぬこゝろ小濱島の尤琴を法華の信実の長

者なりゝ小堂仏生物ものゝけふいとなゝ遂之
庭中の松柏古沼を得垣外の風をかしらを
擡く吟客の面起まくまはなるをや
三月ゝ似ることゝ二日　月
應汀ふて
月の歩る門まて出てもおくるし
宿山寺
雲ふゝて衣のしめる夕歩う雨

甚目寺

雨あがり月も出沖に鷺の宿
降くれて月や栗なのうつの陰

秋夜憶馬六老人

目さめやまた老をおもふや月の入

仲秋無月

月かむこのふたつなき雨のもくもくも

雨後

月てらすや水田にあまた砂の形

帯梅亭

盃をあらはして山月を見て筆を投じて故園を
おもふ思ひ出る故園の友ともこれなりそひふと紙
をおもふなりさきをいとひの風流海山の
家しまをあそして主人の雅情ふかくもひ給る
そ乳鳥をやとりくくと鳴くを聞ふれ月

良夜清光

明月天一面の雲もなく　月　の　ひかりの　口
いさよふうらみてをまし　月　の　ひかりの　口

八月望の夜岳輅少汝大阜旅宿其夜雨ふり
雲の長ぬまふあるふ帰路まふ木枯屋のふ竜ふ
つけつ社は徒歩のきうまつ須なるき老のふの州の夜
月の走をあつまふ一うるさてしも行ふ秋をよこて
なつ〜ねたおの〜袖伐ふ山まうひて帰ふ風しぬ
今宵まこいさよひの月をこ家ふて前の夜の人

くるる俗青うる文老峯ふ集まるをくふおくまていひやうる
宵間をこうても泣〜家月の友
唐桑の垣中ふ月枯ふ砌の邦
案山子
老枯月の作る出しうるかしうる
誰不送春秋一年三百日
煙霞薬此身恐治愚痴疾
月雲を壁天一秋ふ夜この雲法ふ

かゝるしけこゝしなきゝ出ゝ社ハ大ふ人ゝ
ゝこの名ゝゝきていひ物をえをてゐるうゝふゝ
やゝと人の名をてさうひ月ゝいさや揺ゝてり
むいさや松の下をゝなゝゝ松のゝゝさくゝを
起もあゝゝて

山さゝゝ月 秋 をゝゝく 庭 の 松

月ゝ松の半ゝかゝをて夜虫閑なゝ虫の声く
ゝゝゝゝと物ゝ之盃をゝゝ

鳴子

秋 ゝゝや 水ゝ流ゝゝゝゝゝ子ゝ

蘭

ゝゝゝ菜ゝ古人のふるひこゝふ

悼青川

物も死なゝかれゝゝ尾張へといひ遺しゝゝて
青子ゝ常ふ月をゝゝゝゝゝゝゝゝゝ瓢乃
いなゝゝゝゝを送ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

五年六年先師ナクなる事辛洲の砂上か
ひて降るる花ふ便飄とて出て薄墨に
西まと奇なりもて醉臥うつ々に出世の
ひの花となりてるる事家人々青子ら遺言
まりてそのちとまつ物をそいひとしぬ悲の
中のよ物こひ今宵この月ふきしむうらして
うれしまきそいよ〳〵悲しいふこも

雁

湖の書きし鳥とまて知ふ辛り利

鹿

鹿の書や梢も月の雫しまま

題しまま

義まく花菴の名ゆ夕ゆとしよし
妹の懸同しまま木蔭を昨日辛しよ
宇治へ伸しまちどこのみなる秋の山
八月やうおもまの数もうしくしまま

夕のけぶり　鳴　のこれる　荻　のこえ

九十の翁あり東水の祖父なり手つから葡萄

をうゑて秋色ふかく玲瓏たる人多くこれを

愛し翁曰我はこれをして葡萄をうゑ三年ふ

して蔓をなし五年ありて子をむすぶあたわず

うゑ比隣を覆へるに日人集て雅客の

餐餘ふるまひふ歳もまたはきはふれふうひんへ

青銭七百文ふかくよろこぶ翁やもてなしてよりこれ

中ごろまる年の秋のくれめその人又来て云こと

又はもふくこれをうびこ二貫文を因みのあめ

翁ときしこ云年〳〵歳〳〵うゑのこれふて

つひに黄金十ひらをつゑ翁樹下ふ板屋を

作りて笑て曰葡萄のあふなる葡萄のこれふなる

ふて蒲萄亭と名附これその子東水予ふ門人ふ予

東水ふたのみ志ある

茱萸

山茱萸ノ下ついて落る小鳥　う郎

戀

いもうと萩折こぼしてうちふくれ

菊

香をしるべや葉よりあふる鮮の形

漏桶やをくれ黄菊を一つ宛

菊の香や燈をうつす井の形

小庭の菊をふかの殿薄夫の君と名つけ事

いとちいさくおつまををやしまのうぶぐちも

やうやうきくなりのぐるよる菊の九日のくれ日まて

花ひとつ二つ咲出なかぶさよおのつまはつまく

やきくなつかしとおとゝ誘ひて

咲出るまてはをきよとの菜乃友

かくまてなりまくををふうく咲出なかはは

さの頃とも君ゝ日なかれ八ふ月ふれ

送暮　雨翁

月と菊の氣にまう勢ふる旅寐かな

半南舎ら山を額ふ引て水を脚ふ踏てくらの

杉間ふ天をうつぶ出る身も杉の根ふ

高月ちりるてこゝ原さ社ごとの月を

むらもとらふ栖なるまゝ

半天に出る神ゐ引ふ后の月

後の秋は藪ふ東や月は友

秋暮

小高きハちゝけうちなゝ秋の暮

瀧山寺の奥ふ盛呂ら別莊ふ入る

ふ紫一て菴ら柿味噌のふ用ひうふ

平齋ら紅葉見ふ浪花の麦太の芦自慢稲の

優風ら蕗のゝ〻日もくゝ山の端ふ蔦うるぬ

滝山は〻〻ゝ〻ゝ夕もみち

日暮て又老峯ふいゝ社を歩のふ系のりて

なゝふゝてふ系を席上ふうゝてゝしふ社

龍田川を紙子着てわたるなり　許子の風流は
仰うるひてかきらく坐すつゝ侍る

一字　いく　数白かくるやちるも哀ち
枝ちゝ人のかゝひしるなり風ひふく菊ちゝ人乃
涼切ふ花多し

ちり乗不昭て庵の菊　尺　華

暮秋

名残なる秋　申あうるき　西乃海

り秋乃申ゝ志ゝて　何ゝなる
申ゝ秋やむうゝるものを思ふ

枇杷園句集後編卷之四

冬

時雨

青鷺　峰〳〵やしゝ社の先さゝ[illegible]

しゝまてそいこうゆる出ふ[illegible]ふ波の底

松低なさゝ[illegible]しゝ社の鴉[illegible]

り違ふ船[illegible]

尚齡會

壽をたもつむへうらを自然にかなふ自然を
まもりしむ人おのつから命なのいのちへる
清代ふる椽樞げつらを茅茨きりてかし
ちゑ清上ふるふの表殿をおもりおして
清ちゑをやもむしををもりとをさ飛いか
りをも松のそり屋萱の新ふる居して自然
をまもりしむ老の身ちいくさ世数をとる
へをとるをの新をとる飛をとるふる飛し

かるをして文化四乗十月新しく飛ぬるして
寒をを日暮雨巷の埋火れををかし屋つを
あり勢てるをり世のりををうるに数を原しぬ

芦ぬく軒をしら飛のををくの第

艸巷

渡表月をなくさんうるをてりしら飛
数しををををしををををのりをしら山

送 百非 天民帰奥州

廿日あまりの月のかたちなれば人のすさびおもひ参
る旅のそらにて月の名呼まんと風雅して見ち
のく山帰るまぼろし百非天民が別れを送る中ふる
百非もつの友巣居子もまたいへさらぬ
あるまじき名残をしらして
ちらし紙まぎれなくもまことて旅の元
落葉
畑中に拾一色の落葉こそ郷

藪
乃中ふる一木ひとり落葉うら
さびてとてもこの世はしてくれぬ藪ふる哉
中道の磯家にしらぬ木葉こそ宋
奥田氏池亭
ちりうせやすき桑懐帝を池のうち
茶花
茶の花にいの香ゆるゆすてあり
茶は花の歩ちこの月のおほひうる宋

自感

[illegible]

千鳥

[illegible]

二村や子をもつ[illegible]の[illegible]

朝[illegible]

木兎

木兎や四[illegible]日半日

木枯

木[illegible]

小瀬里

風や鶫[illegible]宵乃宿

葱

小式部[illegible]細

冬木立

[illegible]一塚二塚や冬木立

冬木[illegible]越の[illegible]山[illegible]

炭薪主人二瓢を愛せられ油[illegible]

東武小倶[illegible]の壁に懸て

菴を[illegible]や主人帰[illegible]

虚瓢[illegible]答[illegible]

[illegible]鴨の[illegible]瓢

食

[illegible]の[illegible]山

[illegible]張[illegible]髪哉

題[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬の日や蒜葉に生る法師

冬枯や海へ雲よる鶴

桑名渡海

船底へ月のさしこむさくの郭

火桶

月さひて志賀の鐘さく火桶かな

木枯

冬枯や板戸ゆるむ朝月夜

栗津里龍ヶ岡小松杉鬱こめる宮の堂とゝゆ

文州法師のもとにて菴のあるじ

いつしか破れそのあるかなし無名菴の侍そ

かくのごとくれ庵をうけしこれをれさく人の住

おもしろいまゝにやぬるゝそのかたにこゝゆゑれ
清明の古塚のほとりにゆかりありて弔ひ
こゝまたなし里人のいふ三年四季のさのふの
何事あまたる宮の上にうらしぬといふ待て見
新竹正秀東花坊雲裏巴静が徒の碑によりて
一本きりなくあらはならず隠されし法師の
性素なるままに何といはなるゝあはれなり何がましし
あるハ今のはかなさなるまゝに泣きまさる筆も

冬かれや野かれ草に鳥とまる枝

寒月

寒月にかゝる雲乃ちゝのころ
玉兎の松林そなふ光る月のまつかよ晴る
きびしき秋と共に氣色たちさわぎかれてまるに
たくる草のわきを引し留まりてその所の地形に
ぞをトす
松山ふゆまこもる冬の月夜の南

生海鼠

[illegible]

枯蘆

[illegible]

玉野里

霜白し麥嗆庶の[illegible]

炭

峯の[illegible]炭[illegible]

雪

雪やまむこゝ[illegible]月さへ[illegible]山の上

月ゝ雪ゝ折〳〵[illegible]竹のかげ

老[illegible]

月雪の夜を[illegible]情[illegible]

日の[illegible]方ゝ西[illegible]雪　乃[illegible]

雪[illegible]て馬の[illegible]

夜 [illegible] 山買ふ出む庵の雪

青雲屋の名と青竹帯雲の [illegible]

[illegible] 三井寺の [illegible] 飛て湖上青 [illegible]

[illegible]

軒ふ [illegible] 雪 [illegible]

鉢敲

ふ [illegible] 社 [illegible] 鉢 [illegible]

萬和難波津ふ帰む [illegible] 社 [illegible] 之人四人

枇杷園ふ来 [illegible] 雑盃 [illegible]

交 [illegible] 社八目 [illegible] ある [illegible]

[illegible] 藪根汁といふものを焚て酒斟む折 [illegible]

[illegible] 社 [illegible] 鼻を丹ぬり

[illegible] 人 [illegible]

藪根汁焚や尾花を折ふこの [illegible]

網代守

[illegible] 守 [illegible] 山 [illegible] 六 [illegible]

炬燵

そて果し身の如く末もこたつかな

守武風

玉霰きて奇妙なる細工かな

枯野

なふれ日もいまぬ枯野の水溜り

冬籠

冬籠大黒の灯をもやしけり

戀

煎蛎や禿こしきぬ浅芽生なり

煤掃

よ何しようさまへ煤なれ眼になみ

年暮

おもくるたれかあるへし季の梅

季ゆくや雪を四隅にしらめ椿

頼く先く秋よ乾としも一日の南

歳杪偶成

千斛東家酒西家費萬錢
生涯醉中了不問歳時遷

来花堂主人方鼎書

世界前編後編とかハ
きゝ様物覚いつまても後編お
とるあ里りの義の句もまゝ
きつゝ様ゝきれと我友ゝぬ
人のゆゝこの人寫しあゝ方
きるゝ世ゝさゝ様作しを

よよ何も書を見ひろ見ハ
いつそやく申ものひろう
ものしよつておのも年来
師のうるハしく何かて句を
書ちらおるる数多あを
こゝひ阜池とまを撰ひ
いてゝ松杷園句集后編
と成う人ゝそれよりも
つゝまて跋とす

曙菴秋擧

藤園堂
450

愛知県
1103269200